

## 2015年（平成27年）度街かどケア滋賀ネット 事業報告

### ○小規模多機能ケアの拡充

- ・小規模多機能ケアを実施する事業所の立ち上げ支援については、くらし支え合い支援講座やアドバイザー事業で単発の相談はあったが、その後のフォローができず、十分な支援には成りえなかった。
- ・立ち上げ後数年経過した事業所への中期運営支援について、会員事業所訪問等を通じて、一定程度実施できた。
- ・「生活機能の維持・向上」への取り組み支援については、特に機会を設けなかった。なお、会員事業所間での交流研修については、複数の取り組みがあった。
- ・小規模多機能ケア認知症ケア研修においては、街かどケア滋賀ネット自主事業「小規模多機能ケア・認知症ケア研修」の講師として、さくらホームの羽田さんを招いて実施した。
- ・在宅看取り支援の推進については、小規模多機能型居宅介護事業所秋桜舎が主催した、在宅看取り推進セミナー「在宅看取りに欠かせない 住民の理解」に共催し、在宅看取りの推進を図った。

### ○地域支え合い活動の推進（滋賀県「くらし支え合いNPO・地域活動支援事業」を中心として）

- ・支援フォーラムで、愛知県長久手市の吉田市長を基調講演講師としてお招きし、「ゴジカラ村」の精神から、急がないことで、いつもは気づかないことに気づくことが出来、遠回りをして時間をかけることで、良い案が生まれる等のお話を聞いた。  
米原市福祉支援課の服部さんから、市民主体で行う自立した助け合い・支え合い活動を、高島市社会福祉協議会の杉本さんから、市民との協働した助け合い・支え合いの実践報告を、また、NPO法人宅老所心の村田さんに、小規模事業所を拠点とした助け合い・支え合い活動の実践報告をしていただいた。
- ・支援講座では、農業や観光、環境や林業等との他分野と連携し、地域ニーズから生まれた地域の困りごとを解決する生活支援の実践を報告いただいた。
- ・アドバイザー出張支援事業において、アドバイザーである特別養護老人ホームカーサ月の輪の日比さんから、施設内で行われている「こども食堂」への見学・相談等の受け入れについて報告があった。

### ○「いきいき生活支援員」の事業運営（協力）

- ・介護事業所職員研修（内部ジョブコーチ研修・代表者管理者研修）
- ・「いきいき生活支援員」更新研修（スキルアップ研修）
- ・アンケート調査等の実施
- ・標記事業の運営組織である「担い手会議」に、街かどケア滋賀ネット役員が委員として参加し、上記研修等の実施に協力した。

### ○“ならでは”の働きの見える化事業（ダイトロン福祉財団障害者福祉助成金）

- ・ダイトロン福祉財団障害者福祉助成金、調査研究事業の部で採択された
- ・「いきいき生活支援員に多く見られる“ならでは”の働きの見える化に向けての予備調査」として、「いきいき生活支援員」の一層の雇用促進に向けて、県内4事業所において予備調

査を行った。

- ・“ならでは”の働きの見える化、数値化・客観化をするために、調査の対象や調査項目、調査の方法や分析方法を決める為の予備調査とした。
- ・なお、予備調査の倫理審査は、標記検討委員会に委員として参加されている龍谷大学に依頼をした。
- ・今回の予備調査の報告は、別途準備をした。

### ○外国人介護職員養成研修

- ・平成13年から始まった知的障害者介護技能等養成研修の実績が評価され、「滋賀県外国人介護職員養成事業」として滋賀県より委託を受けた。
- ・養成研修の対象者は、ブラジル・ペルー・フィリピン等の在日外国人16名であった。
- ・受講生の殆どが他業種で就労中であり、加えて家庭を持った人も多く、夜間や土曜日の研修は厳しいものであったが、最終的には14名の方が修了試験に合格された。
- ・なお、この研修の運営には、コーディネーターや補助講師（通訳）が付き、また各講師の外国人の方への講義上の配慮もあり、比較的スムーズに運営が出来た。
- ・日本語教育部分を受け持った、SHIPS（多文化共生支援センター）との連携協力も大きな力となった。
- ・修了試験後は、SHIPS（多文化共生支援センター）と連携して、一定程度の就労支援を行った。

### ○小規模通所介護の類型化支援

- ・平成28年度から本格的に始まる類型化に備えての勉強会を1回実施した。
- ・ほとんどの事業所が「地域密着型通所介護」に移行し、表立ったトラブルは見られなかった。

### ○「小規模多機能型居宅介護の集い」事務局業務

- ・年度途中から、県下約65ヶ所の全事業所に案内を送り、平均12事業所近くの参加を得て3回の集いを実施した。
- ・なお今年度は、長浜市、高島市、大津市を会場として実施した。
- ・また、年1回の交流会を予定していたが、実施出来なかった。
- ・集い参加の事業所に対して、街かどケア滋賀ネットへの加入を呼びかけたが、新規加入はなかった。

### ○街かどケア滋賀ネット自主事業

- ・5月19日の総会時研修では、「これからの介護保険・事業所・地域を考える」をテーマに、NPO法人つどいの川村さんに、介護事業所と地域との関わりや、これからの介護保険についてお話しいただいた後、NPOしみんふくしの家八日市の小梶さんとの対談を行った。
- ・8月26日の「事業所間見学交流会」は、彦根市の「デイサービスセンター鈴の音」「小規模多機能型居宅介護事業所 鈴の郷」を見学した。また、多賀町の「多賀清流の里」へ移動し施設内を見学後、施設担当者と参加会員で懇談・情報交換を行った。
- ・12月14日「小規模通所介護の改定（類型化等）を考える研修会」を、栗東市のウイングプラザ栗東で行なった。三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の国府田さんをお招きし、当面の介護保険制度、通所介護の方向性等についてのお話を聞いた。

- ・同日午後から、「小規模多機能ケア・認知症ケア研修」を行った。広島県鞆の浦からさくらホームの羽田さんをお招き、小規模多機能ケアとしての実際の報告を聞いた。また、羽田さんと、立命館大学BKCS社系研究機構の中井さん、NPO法人ひだまりの永田さんを交えて鼎談を行った。その後、羽田さん、中井さんを囲み参加者との意見交換を行った。

### ○会員拡大と財政の安定化

- ・ホームページの積極的活用（更新）は継続的に行った。
- ・フェイスブックを開設、必要に応じ情報提供し一定程度の効果があった。
- ・1役員1会員獲得の目標は、ほとんど達成できなかった。
- ・寄付金の依頼は、口頭のみで書式の準備は出来なかった。
- ・情報提供等のメール配信の徹底はかなり可能になったが、依然としてメール配信が不可能なところが残っている。

### ○その他

- ・役員会への欠席なし（必ず代理出席を）については、一部努力が見られたが、出欠の連絡すらなかった方もおられた。
- ・各事業担当役員は、事業の企画・準備・当日運営・事業報告を行うことになっていたが、一部の役員や事務局が進めてしまうことが多かった。これについては、年度途中から、批判があがり一部改善をしたが充分ではなかった。次年度への重要な引継ぎ内容である。
- ・各ブロック代表は、ブロック内活動についての報告を行うことになっていたが、今年度の報告はなかった。
- ・「宅老所・グループホーム全国ネットワーク」との連携や「同近畿ブロック」での活動については、三役、事務局を中心として行った。
- ・県・市町行政、その他団体・ネットワークとの連携・協働については、各委託事業や自主事業で深めた。